

むばら

平成二十五年は、第二祖日向聖人の七百遠忌です。

題字・持田日勇貢首観下

第15号

発行日 平成19年4月1日

発行所 千葉県茂原市茂原 1201
日蓮宗本山東身延 藤原寺
発行責任者 総務執事 増田 寶泉
TEL0475-22-3153

- 本年4月29日の「いのりの日」は既に募集を締め切りました。来年より身延山参拝か?
- 山務職員募集中(日蓮宗僧侶の資格を有する)
- 金森上人にもいよいよ春が!

掲示板

四月二十四日(火)午前十一時
日蓮宗 宗宝 藤原寺所蔵『無量世界大曼荼羅』修復終了帰山式
四月二十八日(土) 正午
山門内に勧請されている『お釈迦さま』修復終了帰山式
五月十五日(火)~十六日(水)
七面山に登詣します。体力に自信のある方は、是非ご参加ください。

五月十二日(土)

第二回目の時代行列を「日蓮聖人お迎え時代行列」と称し行います。多くの皆様の参加を募集します。

第二回『日蓮聖人お迎え 時代行列』



戦争の廃絶を

叫んでいきましょう



「三界は安きこと無し。なお火宅の如し。衆の苦しみ充満して甚だ怖畏すべし。常に生老病死の憂患ありて、かくの如きの火燃然としてやまず。今この三界は皆これ我があり。その中の衆生は悉く我が子なり。而も今この處は諸々の患難多し。唯我一人のみ能く救護をなす。」これは法華経聖品にある有名な言葉です。

私は子供の時に火宅を体験しました。太平洋戦争末期の下町大空襲がそれです。小学校二年生の終り、三年生になる前の昭和二十年三月十日にあの大空襲にありました。今でもあの惨状を忘れることができません。

私はブルーで上からどんどん飛び込んだのでしよう、下の人は窒息死し中の人には水死し上の人には背中を焼かれて焼死し、ブルーが食パンみたいでした。本当に悲惨でした。言問橋の中央では立正安國論の中の「屍を臥して物見となし、死体を集めて橋と

黒焦げの死体が方々に転がっていました。市役所前のバイパスと同じ様な幅の道路の歩道の脇に穴が掘られ、上に覆いをして土を被せた防空壕が沢山ありました。そこに入つた人は全滅で、道端に引き上げた人の背中が丸焦げで胸がピンクの死体が子供を抱いている姿が今までも目に焼き付いています。

中でも小学校の中で、それも講堂で折り重なっている死体の山々・・・。

上野、神田、銀座、深川、大島、亀戸、向島と丸く輪を作るよう落とし、家々が燃え上がつて、人々がその輪から出ることが出来ないようにしておいて、その中にまた焼夷弾をばら撒いたのです。死者十万人といわれています。

一面火の海でした。アメリカ軍は焼夷弾を浅草、上野、神田、銀座、深川、大島、

が盛り上がって塔の如くなつていました。

水死者の数が多く、毎日数え切れないのでした。水死者は横になつて流れて来るのではなく、頭だけがボカボカ浮かんで来るのでした。駒形橋の上から一つ二つと数えて「すごいよ今日は何百何十と上がってきた」と父親



時代を見つめてきた現在の駒形橋 昭和2年建造

「スペイン・ゲルニカへの爆撃、連合國軍による独逸ドレステンへの爆撃がありますが、アメリカ軍による日本各地への爆撃は在庫の爆弾を総て使って行なつたもので、その凄まじさは歴史始まって以来のものであります。

その最後の止めは広島への原爆投下です。あの爆弾を抜き打ちで投下する必要があつたのか、アメリカの爆撃機は日本の空を自由に飛び回っていたのです。

十万以上の人々が一発で死傷する強力な爆弾を作つたから降伏しなければ投下するとなぜ予告しなかつたか今でも疑問です。尚かつ長崎にまで落とす必要があつたのか、それについて当局のの中に反対を表明する人がい

て聞かされました。廣島は平地でなく山あり谷あり坂が多く、また煉瓦造りの家ですから、一度の爆撃の効果が余りなかつたのでしょう。昭和十八年から二十三年に至る五年間に亘る無差別爆撃で、住民にとってはその肉体的、精神的な打撃が大変だったそうです。

そのほかの無差別爆撃として

は、独逸ドレステンへの爆撃、連合國軍による

なかつたのか、今でもアメリカ良識に疑問を持っています。

戦争だからといって何でもかんでも許されるわけではありません。ベトナム戦争での枯れ薬剤の散布、アフガニスタンでのクラスター爆弾の使用等、人を虫けらの如く殺傷する兵器をなぜ使うのか、人間の悪魔的なモーションを排除しなければいけません。

いずれにしても『目には目を、歯には歯を』では戦争はなくなりません。ヨーロッパで痛めつけられホロコーストでの大虐殺にあつたユダヤ人がバレスチナにイスラエルを建国すると、今度はパレスチナ人を抑圧するのでは平和は来ません。



対話が必要ですし、いたわりの心が必要です。相手を思いやるのは佛教の慈悲の精神です。精進をしていきましょう。

高樓の門は、大正六年の台風で倒壊し、昭和八年、当山第七十八世駕雲山日我上人によって再建されたのがこの多宝塔式の山門です。

現在では茂原市の象徴的な建物として有名な建物で、和菓子の絵になつてたりもします。

高さは二十五メートル、インド、中国、日本の仏教伝来ルート各国の特徴をいかした造りとなつており、昭和の三筆といわれた雲山日我上人が最晩年に建設したものであり、全国に呼びかけて雲山上人の書を売つた資金で建設されたと言われております。又、設計・監督は、現持田貫首様の父、持田雲道上人の手によりました。



山門



団参の豆知識 「七面山」

標高一九八二メートル。山頂のお堂は敬慎院と称し、身延山の守護神七面天女（＝七面大明神）がお祀りされています。敬慎院までは久遠寺から直線距離にして約七キロ、徒歩で約二〇キロの道程です。日蓮聖人は遺文の中で、頂上部に大崩屋があるところから「なゝいた（七面）がれのたけ」とも言い表しています。

伝承によれば、草庵から上手に數十ばかり登った所（現在の妙石坊）に大きな石があり、日蓮聖人は散策の時とか、身延山頂へ登られた折とかにその大石に座つて説法されるのを常としていました。建治三年（一二七七）九月の頃、いつものようにそこで説法をしていると、聴衆の中に妙鈴の美女がいて熱心に聴聞していました。居並ぶ弟子・檀越たちもこの山深いところで、見なれない美女を不審に思つていました。一緒に供をしていた波木井実長も大変いぶかしく思いました。大聖人は、皆の不審を感じこられ、女人に向つて「そなたの姿を見て皆不審を抱いている。本体を見せてやりなさい」といつて、花瓶の水を女人にそそぐや、たちまち姿を変じて一大あまりの竜の姿となつて花瓶にまつわり、首をもたげ、恐ろしい姿でみないる人々をおののかせました。ややあつてもとの美しい女人の姿にかえり、「わたくしは七面山に住む七面天女です。身延山の鬼門をおさえてお山を守る法華經の護法神として、いまかりそめの姿を現しました」人々が法華經を読み、題目を唱え、至心に私に折るならば、心のやすらぎと満足をあたえるでしょう。いいおわるや、七面山の方へ飛び去つていきました。その後大聖人入滅十六年後の永仁五年（一二九七）九月一九日、実長は六老僧の一人日朗と共に七面山に登り、七面天女を祀つたと伝えられています。七面山ではこの日をもつて開創の日とし大祭を行つています。

七面山上人の書は、身延山の大殿に「遠隔離垢」と大書された額で拝見する事が出来ます。

奉仕作業

仏殿脇の池も事務所前の池同様に作り直しました。

一昨年の夏より中庭の池・彼岸池・



事務所前の池と統

き、仏殿脇の池もついに完成し、境

内の池すべてが、役員さんの手

作りの池として完成しました。

又、淨化装置まで手作りされ、

鯉の生活環境?が一新しました。

行事

○新年祝祷会(一月一日)

除夜の鐘の鳴り響く中、平成十九年の年明けと共に斎修される

祝祷会、本年は、要品の

読誦の後ご祈祷が行われ

ました。お経中には堂内

下神に入りきれない程、

初詣の人が居たのに、い

ざご祈祷と言うときには、

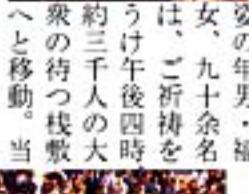
「あれ?」人の波という

のは変化が激しいですね。

○御頭講会(一月八日)

例年、成人式の行われている同日に行われているお頭講会。新

年を迎える貴首様を始め門末の



○節分豆撒式(二月三日)

天候に恵まれ、井

原の桜まつりと山内のフリーマ

ーイベントも重なり、大勢の人出

の中での練行列になりました。

法要では、献灯を河部

理奈さんと井口果保さ

ん。献花を林優里さん

と斎藤彩乃さん。祭文

を高橋美里さん・石渡

衆の待つ棲敷

うけ午後四時

へと移動。当

日は土曜日で

渡されました。

あり、しかも境内ではフ

リーマーケットが開催さ

れていた事もあり、例年

新入檀者紹介

茂原市町保 鶴岡 幸治様

茂原市大芝 常住 幸由様

昨年十月一日からの入檀者を掲載

に無い人の多さに圧倒され、中には撒いた物を拾えない人も多く数出る程でした。本年の年男代表は秋葉勝廣氏でした。

○花祭り(四月八日)

例年に無いほどに晴れ渡るなか、お稚児の子供

達二十一名が参加しました。

午前十一時、化粧をして冠舞が奉納されました。その後の曳馬式に

は、大聖人の愛馬に扮した馬に、

来山の苦男溝女が人參の二儀美

をあげ、記念撮影を楽しんでい

特製調理テーブル

華経坊例祭毎月一日午前十一時

金十万円 堀口 芳子様

身延山布教隊來山

平成十九年度行事予定

お題目初唱会 五月 十二日(土)

宗祖御更衣会式 六月一日(金)十八時

ホウロク灸 四月二十九日(日)

盂蘭盆施餓鬼会 七月三十日(月)九時

川施餓鬼会 八月十五日(水)九時

門祖講 八月二十四日

秋季被岸会 九月二十三日

宗祖御更衣式 十月 一日

向尊殿大祭 十月 三日

観音堂秋季大祭 十月十四日

お会式 十一月十日

子育て観音大祭 十二月一日